2011 年 11 月 26 日 **分科会カテゴリ B（公共事業）**

テーマ：デマンド交通と郊外の観光資源活用法

宇都宮大学・中村ゼミ　　板谷洋介　佐々木舞　細川いずみ

１　郊外の観光地のいま

今回の JOINT 合宿にあたり、宇都宮大学中村ゼミでは近年注目を集めている「着地型観光[1]」に焦点をあて、身近な宇都宮の魅力についてあらためて調査した。

現在の宇都宮市[2]では、食文化においては餃子を筆頭に、カクテルや焼きそばなどの庶民派グルメをはじめ、米やニラなどの野菜や、イチゴやリンゴ、梨などの美味しい果物が市民の味覚を愉しませている。

文化・スポーツ面の魅力も充実している。国際的なサイクルロードレースとして JAPAN CUP が行われ、自転車の街として注目されている。また、サッカーやバスケットボールなどのプロスポーツは、多くの熱狂的なファンを得て盛り上がっている。インドアでは、ジャズやカクテルの街として市民に愉しまれている。歴史についても興味深いものが数多ある。宇都宮の地理的な特徴として、奥州街道と西会津街道、そして日光へ至る街道が交差しており、関東以北への交通の要所であったことが挙げられる。その他、動物園や美術館、運動施設なども充実している。

自然環境も大きな魅力である。四季の移り変わりとともに、桜、ツツジ、ラベンダー、ニッコウキスゲ、ポピーなどの花を愉しむことができる。早春の古賀志山から眺める白銀の日光連山や初夏の新緑の森、秋にはハーベストグリーンに彩られた田園風景にコスモスが色を添え、大谷石の街では奇岩とパッチワークのような紅葉の美しいコントラストが目を愉しませている。この恵まれた環境下で、ハイキングやロッククライミング、サイクリング、釣り、パラグライダーなどのアウトドア系のアクティビティが多くの人に愉しまれている。

これら多くの宇都宮の魅力を調査していて、私たちは一つ問題点を見出すこととなった。宇都宮市街地における観光については中心市街地循環バス“きぶな”があり、体力のある人であれば徒歩でまわれる圏内にある。しかし、石の里で知られる大谷地区や古賀志山のある森林公園、上河内地区、河内地区などは交通手段が限られており、マイカーを持たない市民には郊外の観光地を愉しむ機会が十分ではない状況である。我々のメンバーの中からも、「あちらこちらに出掛けてみたいが・・・」という声が続出した。

この問題を解決すべく、我々中村ゼミでは、宇都宮市街地発着の郊外循環型デマンド交通を提案することとした。中心市街地から郊外各所を結ぶ交通網を整備することで、郊外の文化・歴史施設や自然、旬の農産物を多くの市民に愉しんでもらうことが出来るようになる。また、循環バスの運行と合わせて、年間を通じてそれぞれの地域の魅力を提案することで、宇都宮の新たな魅力との出会いの機会になると共に、郊外の産業の活性化にも繋がるであろう。また、郊外と郊外を結ぶことで、それぞれの地域の交流が生まれる可能性や、市民の趣味やレクリエーションの活性化にも繋がる可能性も大きいといえるであろう。

こうした循環型デマンド交通により生まれる交流は、人と人が繋がり、人と趣味がつながり、人と自然や文化が繋がることとなる。まさに、“住めば愉快だ宇都宮”のキャッチコピーの通りに、魅力あふれるネットワークを形成し、宇都宮市が益々愉快になり、宇都宮市民に愛されるまちづくりとなる、素晴らしい提案であるといえるであろう。

本提案は、宇都宮市民の愉快の要望“デマンド”を乗せて走る新しい交通システムなのである。

1　着地型観光とは、旅行先の地域が主体となり、各種体験や地元産品等当該地域ならではの観光資源を活用して造成された旅行商品をさす。
観光庁 施策：http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/platform.html　（2011.11.10 閲覧）

2　宇都宮市では、東西約 24ｋｍ、南北約 30ｋｍの広範囲に自然観光資源や歴史文化の史跡などの観光地が点在し、51 万人の市民に親しまれている。
宇都宮市 HP 市のあらまし：http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/gaiyo/index.html
（2011.11.10 閲覧）

２　現在の郊外の観光地

2-1　各地域へのアクセス（所要時間・便数・料金）について

現在の観光資源となる郊外地域へのアクセス状況を調査した。運行路線、運行本数、運賃について、それぞれ確認する（表①）。

まず、宇都宮市内で運行されているバス路線図を確認すると、下金井（宇都宮動物園）のみが複数の行き先のバスが通る以外、すべてが一つの路線の通過点、もしくは終着点となっている。そのすべてが、宇都宮市街地を基点として放射状に伸びる形の路線となっており、郊外の各観光地を横に繋ぐ交通網は無く、１ヶ所の観光地から別の観光地に行くにはタクシーを手配するか、歩くなどの方法となってしまうことになる。

料金については、JR による移動を比較対象とした。JR 宇都宮駅を基点にした料金は、鹿沼で 230 円、氏家で 320 円である。これと路線バスの料金と比較した場合、バスの方が約２倍の料金となっている。しかしながら、駅から観光地への距離が遠く、タクシーの利用によるコストや徒歩による時間のロスを考慮すると、一概に JR の方が安価であると判断することは出来ない。

ただし、運行本数は、各地域へ直行する場合はある程度の便数が運行されていることがわかった。この点については、デマンド交通のみによる移動に限定しないことで、現地での行動の自由度に繋がり、時間に余裕を持つことが出来るというメリットとなる。

このように、既存の交通機関での移動には制約があり、郊外の複数の観光地を訪れることが困難であることがわかる。

（表①）主要観光地・バス運行状況

目的地	バス停	運賃	本数･往 ※2	本数･復 ※2	始発	終発	※3
大谷観音	大谷観音前	440	22(22)	22(22)	7:00	21:08	30 分
古賀志山･森林公園	森林公園入口	530	7(7)	7(7)	7:28	17:58	33 分
ろまんちっく村	ろまんちっく村	620	11(10)	12(11)	6:35	21:22	42 分
宇都宮動物園	下金井	540	50(44)	49(43)	6:20	22:14	27 分
上河内地域交流館	上河内町地域自治ｾﾝﾀｰ	690	14(12)	13(11)	7:17	17:50	33 分
白沢宿	白沢河原	530	20(15)	20(15)	7:18	20:01	30 分
飛山城史公園	下竹下	550	16(16)	13(13)	7:15	18:45	25 分

※1　宇都宮駅発着。土曜日の運行本数。括弧内は日祝日の本数。
※2　おおよその所要時間。

2-2　着地型観光のプロフェッショナルから見た大谷地区

地域住民の取り組み以外にも、大谷地区の魅力に注目した興味深い企画がある。株式会社ティーゲートが企画した“旅の発見・・・大谷石の里 宇都宮市大谷・・・「2000 万年の時の流れ」と「人の営み」が折り成す不思議空間を歩く”では、午前中に石の街としての人の営みに注目したコースを巡り、午後には早春の大谷地区の景観を楽しむコースを設定し、５時間にわたり大谷地区の魅力を満喫するツアーであった。しかし、開催日が 2011（平成 23）年 3 月 13 日の予定であったため、東日本大震災の影響で中止となってしまった。残念ながら幻のツアーとなってしまったが、担当者の総評から、旅のプロによる緻密な地域分析と現地調査から生まれた大谷地区の魅力の高さと、それに対する強い愛着を窺い知ることができる。要点を以下に抜粋する。

- 大谷についての調査を進めていくほど、大谷に引き込まれていった。大谷石自体の魅力や建造物、そして大谷地域の景観に惹かれていった。
- 1 日だけの設定で、募集期間が２週間程度でも 12 名の参加申し込みがあったことから、大谷観光の需要は一定程度見込める。

・ 宇都宮市民の参加者が多いことから、地元の人に地元を知ってもらうツアーへの関心が高く、価値がある。
・ 調査中に仙台旅行の帰りに大谷に立ち寄ったご夫婦との出会いから、県外でも大谷地区を知っている人に関しては需要が見込める。

このように、大谷地区には旅のプロフェッショナルをも唸らせ、虜にしてしまう魅力がある。この総評において担当者は「着地型観光という観点から、大谷観光を復興したい。」と訴えており、「今後も注目するとともに関わっていきたい」と結んでいる。

着地型観光とは、地元地域のツアーを地元の旅行会社が企画し提供する形のツアーで、同社のホームページ[3]を閲覧したところ、日本各地でさまざまな地域再発見の企画が催されていた。地元地域に注目し、その魅力の再発見や抽出をする作業は大きな価値があるといえるだろう。

2-3　各観光地の集客への意欲（大谷でのインタビューから）

本提案にあたり、主要な観光地を訪れて調査を行った。その中で興味深かったのは、大谷地区での調査の際にインタビュー[4]した大谷石体験館の担当者の話であった。要点は以下の通りである。

・ 東京の帝国ホテルの材料として使用され、関東大震災にも耐えたことで全国的に有名になった優秀な石材産地である大谷石を多くの人に知ってもらいたい。
・ 大谷地区は日本最古の磨崖仏とされ、学術的にも非常に価値の高い石仏といわれる大谷観音をはじめ、縄文時代の大谷岩陰遺跡や近現代における歴史的な石材の街など、さまざまな観光資源を有している。また、大谷地区を中心に宇都宮市内には大谷石を使ったさまざまな建築物がある。石造りの家をはじめ蔵や外構塀などのオーソドックスなものから、峰が丘教会や宇都宮聖公教会などの大型建造物、大谷石で屋根を葺いた建物や大谷石造りの長屋門など、大谷石の石材としての魅力と多様性は大谷地区の最大の魅力である。
・ 自然環境においても大きな魅力がある。春には新緑が萌え桜やツツジが華やかに咲き競う。初夏からは青々と繁る木々が美しい。秋の紅葉は岩肌と赤黄の彩のコントラストが鮮やかで、風景写真の定番ともいえる絶景が広がる。そして、冬には大谷ならではの魅力が一際強く現れてくる。
・ これらの観光資源を、宇都宮観光コンベンション協会の会員がガイドする取り組みも行われている。また、大谷資料館では、地下空間の食品貯蔵に適した環境を活用して、ワインや肉の加工食品を楽しむ企画など、独自性に富んだ企画で、大谷地区の活性化に取り組んでいる。
・ ろまんちっく村から大谷地区への送迎によって同地区を観光したグループは、大谷地区の魅力の深さに驚き、大変喜んで帰っていったということがあった。

このように、大谷地区では集客への意欲が強く、具体的な取り組みを行っている。また、今回のインタビューの際、他地域との連携について大変強い興味を示していたことが印象的であった。

3　郊外型デマンド交通の魅力

3-1　デマンド交通の運行

宇都宮市郊外の観光資源を循環するデマンドバスを運行する。市街地と郊外、郊外と郊外の交通ネットワークを構築し、利用者に多くの“愉快”を提供する機会を作ることが目的である。

---

[3] 株式会社ティーゲート　「旅の発見」http://tabihatsu.jp/（2011 年 10 月 23 日現在）
[4]　大谷石体験館にて、2011 年 10 月 8 日に実施。

運行にあたっては、市民からニーズをピックアップする。市役所のホームページ上や、主要な観光地において目安箱を設置するなど、そのニーズや意見をヒヤリングするなども有効であろう。こうして収集したデータを元に、バス停の設定とダイヤの編成等を行い、多くの市民が愉しめるデマンド交通を運行する。

3-2　宇都宮の魅力を PR することにより市内全域の産業を活性化させる

これまで述べてきたように、宇都宮の郊外には多くの観光資源があり、季節毎にいろいろな魅力的な表情がある。これらの魅力について、月別に旬の地域を取り上げて PR し、実際に宇都宮の魅力を体験してもらうことで、市民のレクリエーションを活性化すると共に、郊外の地域の魅力の再認識を促し、郊外の地域の活性化を促進する。

3-3　人と人、人と趣味、人と自然・文化を繋げる

デマンド交通運行にあたり、民間企業や宇都宮市民から協力を得ることで、利用者の拡大と消費活動の活性化を促すことも、一つの目標とする。民間の協力という点では、循環する観光地の主要な施設に協力を依頼する。例えば、大谷地区であればデマンド交通の利用者を対象にした観光ガイドによる案内を行う。また、季節に応じた飲み物のサービスや、お土産品の割引券の配布を行うなどが有効であろう。ろまんちっく村では、新鮮な旬の野菜の味噌汁や漬物の提供、野菜料理のレシピの配布などが喜ばれるのではないだろうか。宇都宮動物園や美術館などでも、ガイドによる案内があれば更に深く興味を持って愉しむことが出来るだろう。

一方、市街地では飲食店などの協賛を得て、サービス券や割引券をデマンド交通の利用者に配布する。こうして、一日の観光の最後に食事やお酒を愉しめる付加価値を付けることで、利用者の消費活動を促進することができる。飲食店側には、デマンド交通利用者という一定の集団に対して効率的に宣伝活動を行うことができるメリットがある。こうして、利用者と協賛企業の双方が愉快な繋がりを作ることができるだろう。

市民の協力という点では、市内で活動を行う趣味の団体（山岳会・写真・絵画・俳句・野鳥の会・植物観察、など）に協力を得ることで、新たなコミュニケーションが生まれ、人と人、人と趣味とが出会う機会となる。デマンド交通運行に際しては、各団体の会員の利用が見込めるとともに、同乗者同士の会話から新たな趣味の可能性が生まれる。もちろん、個人の利用者には自分の知らない趣味の世界を知ることは良い刺激になる。さまざまな愉しみに向かって走るデマンド交通ならではの多様な繋がりが出現する。

4　郊外型デマンド交通導入について

4-1 デマンド交通運行にあたっての行政の役割

4-1-1　要望の集約方法と運行計画

デマンド交通を運行するために、まず、行政は市民からニーズをピックアップする窓口を設ける。広く市民からの意見を得るために複数の方法を活用する。

まず、デジタル媒体では、宇都宮市 HP にデマンド交通運行に関するページを作成し、運行ルートや希望する停留場などアンケートを行う。同時に、文章による意見を書き込むことができる掲示板などの設置を行い、具体的な希望や意見を受け入れられるシステム構築が不可欠である。

次に、市役所や市が関連する施設を訪れた市民からの意見の窓口を作る。世代によりデジタル媒体の使用頻度が低い世代への対応となるとともに、偶然に目に留まってデマンド交通の存在を知る機会を作る。また、市内の図書館や各種学校、公共交通機関、公民館やカルチャーセンターなど、多くの人の目に触れ興味を持ってもらうことが利用者の増加に繋がる。

積極的な方法として推奨したいのが、市内の企業や団体へのアンケートの送付である。民間企業であれば、仲間内のレクリエーションなどのきっかけや、福利厚生の一案となる可能性もある。

趣味に関連する団体は、実際の運行に対して具体的な意見を出せるはずだ。昨今の登山ブームに代表されるように、登山や写真、絵画を趣味に持つ人は積極的に市内観光地を訪れている確率が高く、それぞれが便利になるように意見が出されるだろう。その他、市内の高校や大学の掲示板に市の HP にリンクする QR コードを掲載したチラシを貼ることの効果もある。カルチャーセンターや集会場などについても同様である。

このように複数の方法で市民の要望を集約し、デマンド交通の運行計画に移行する。要望に沿った観光地を効率的に循環するルートを作成し、参加希望者の見込み人数等で運行する交通機関の大きさや本数、ダイヤを作成する。

なお、本提案を作成するにあたり、実際にいくつかの観光地を巡回した上で、以下のモデルコースを作成した。

【モデルコース】

	停留所	見どころ・アクティビティ
1	JR 宇都宮駅西口	市街地でショッピング・餃子の像、ほか多数
2	二荒山神社前	二荒山神社・妖精ﾐｭｰｼﾞｱﾑ、ほか多数
3	東武宇都宮駅入口	オリオンスクエア、峰が丘教会、ほか多数
4	石の里・大谷公園入口	大谷資料館・大谷観音・平和観音・ﾊｲｷﾝｸﾞ、など
5	森林公園・古賀志山	ﾊｲｷﾝｸﾞ・登山・紅葉狩り・釣り・ｻｲｸﾘﾝｸﾞ・ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ、など
6	ロマンチック村	温泉・地ビール・野菜販売・ﾌﾗﾜｰﾏｰｹｯﾄ・ﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰ祭、など
7	日光街道・宇都宮動物園	桜と杉の並木道・宇都宮動物園
8	子どもの森公園	冒険活動センターの子ども向け野外活動プログラム・ｷｬﾝﾌﾟ
9	上河内・市営ゆず園	羽黒山登山・羽黒山神社・ゆず園・ロウ梅、など
10	上河内・地域交流館	梵天の湯・上河内民族資料館・栃木県防災館・御用川桜堤
11	白沢宿・白沢公園	白沢宿の街並・プール・鬼怒ｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸ白沢・観光やな
12	河内総合運動公園	ドリームプール河内、など
13	鬼怒グリーンパーク白沢	鬼怒ｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸ白沢・ポピー畑・パークゴルフ、など
14	飛山城史跡公園	とびやま歴史体験館・釣り・ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ・ﾊｲｷﾝｸﾞ
15	みずほの自然の森公園	みずほの自然の森公園、ほか
16	インターパーク	インターパークのエリア各店舗
17	宇都宮卸売市場	宇都宮卸売市場、ほか
18	JR 宇都宮駅東口	駅前イベント広場・餃子村駅前横町、ほか

4-1-2　運行の予約・管理と料金設定

次に乗車方法と料金設定について考察する。まず、チケットは基本的にデマンド交通のホームページでの予約制として、運行する車両の大きさや台数を適当に対応できるようにする。その上で、運行当日にチケットを販売して乗車してもらう形式とする。料金は既存のバス路線よりも安くすることで、市民が気軽に、数多く利用できる設定にする。また、小学生以下の料金や家族割引、グループ割引などの設定や、当日の乗車希望者への対応ができるシステムとする。

これら以外に、停留所以外の乗降などについても精査する。チケットのデザインと合わせて一度だけ停留所以外で乗降できる付加価値をつけたり、任意の場所での乗降には別料金を適用するなど、運行にあたってはフレキシブルな対応を行う。

4-1-3　宇都宮の魅力の提案

運行にあたって最も重視すべきなのは、その魅力を的確に伝える PR 活動である。多くの魅力を持つ宇都宮市の観光地の PR に、思わず目が止まり、そこに行きたくなるようなプランを作成しなければならない。具体的なポイントは、それぞれの季節に最も魅力的な地域や名産品を取り上げ、その背後にある多様性と広がりまで伝える。また、近隣の観光地との関連性や、他の名産

品との関連付けを行うことで魅力を高める。

宇都宮市発行の主要なパンフレットや HP から魅力ある地域と名産品をピックアップし、それらを精査した上で、以下のモデルコースを作成した。

【サンプルプラン】

月	コース名	概　　要
1	**不動さま初縁日が愉快だうつのみや**	1 月 28 日に行われる不動尊の初縁日に合わせて、参拝。甘酒も美味しい。参拝後は新春の石の街を散策する。市街地では二荒山神社太々神楽もある（1/5/9 月の 28 日）。
2	**イチゴ狩りが愉快だうつのみや**	旬を迎えたイチゴ狩りを市内各所の農園（ﾛﾏﾝﾁｯｸ村、ほか）で楽しんだあとに、温泉をセットで愉しむ。多気不動尊では人形供養も行われる。
3	**春が愉快だうつのみや**	古賀志山では梅やスミレをはじめ、カタクリや福寿草など、春の花が咲きはじめる。頂上は秀麗な日光連山が白銀に輝いている。梅の香りを楽しみつつ春の宇都宮を愉しめる。
4	**花見が愉快だうつのみや**	宇都宮を代表する桜の名所、日光街道の桜のトンネルを散策した後は、美味しいお弁当でピクニック。お父さんがお酒を飲めるプランにする。〆は温泉でホカホカな春の一日を提案する。
5	**森林公園が愉快だうつのみや**	春爛漫の森林公園で、鮮やかな新緑とパッチワークのように咲くヤシオツツジを愉しみながらハイキングやサイクリングを愉しむ。鬼怒グリーンパークには河川敷一面のポピーが綺麗。
6	**花と蛍が愉快だうつのみや**	ろまんちっく村で満開のﾗﾍﾞﾝﾀﾞｰと名産のランを鑑賞した後は、温泉で汗を流し、採れたて野菜料理と地ビールを愉しむ。下旬頃から飛翔するホタルの観察も愉しい。
7	**初夏が愉快だうつのみや**	青々と延びた稲穂が一面に広がる田園風景。上河内地区などでは、観光やなで鮎料理も愉しめる。もちろん、温泉温泉で汗を流してゆっくりくつろげる。
8	**夏休みが愉快すぎるぞうつのみや**	登山入門に最適な古賀志山は、キャンプ場や釣り、サイクリングなどのアクティビティの設備も充実。宇都宮でも愉快すぎる夏休みを過ごせる。
9	**くだもの狩りが愉快だうつのみや**	フルーツパーク宇都宮など、市内各所の果実農園で、梨・リンゴ・ブドウなどの果物狩りを楽しむ。田園地帯では、ハーベストグリーンの稲穂が風に揺れ、実りの秋を実感できる季節である。
10	**芋掘りが愉快だうつのみや**	実りの秋を迎え、農産物の収穫を愉しむことができる。ロマンチック村ではサツマイモ堀りをはじめ、白菜やネギも収穫可能。作業で汚れ、疲れた体を温泉で癒し、豊かな秋を満喫する。
11	**紅葉が愉快だうつのみや**	大谷地区では岩壁・奇岩と紅葉のコントラストを愉しみつつ、日本最古の磨崖仏・大谷観音や平和観音散策を愉しむ。古賀志山では、古賀志山頂上からは日光連山の眺望と、スカイツリー遠望。
12	**師走が愉快だうつのみや**	冬枯れた景観は大谷地区の大きな魅力の一つ。石工作体験を愉しんだ後は、温泉で体の芯から温まろう。市内を走る旧街道の各所で露店が並び、年の瀬の賑やかな雰囲気を愉しめる。

このようなプランを魅力的なキャッチフレーズと共に、愉しみ方のモデルとして提示してアピールする。

4-1-4　広報戦略の提案

デマンド交通の利用者の募集については先にも部分的に触れているが、更に詳細な広報活動の

戦略を提案する。広報活動は、基本的に多くの人の目に触れて興味を引くことが前提になる。こうした点から、「4-1-1　要望の集約方法と運行計画」において提案した内容をそのまま踏襲することができるだろう。ここでは、その他の広報戦略について、具体的に以下方法を提案する。

まず、デマンド交通のシンボルとなるものを決定する。そのシンボルとなったものを関連する宣伝材料すべてに配し、「シンボル図案＝デマンド交通」というイメージ戦略を早い時期から構築する。これは、チケットのデザインはもちろん、専用のバスを導入する際などにも必要となる。

こうしたイメージ戦略に沿った宣伝材料を有効に活用する戦略も重要である。先に述べた民間企業や市民団体、学校などの人が集まる場所の他に、協賛提携を結んだ企業や個人商店へのポスターの掲示依頼や、栃木県が管理する施設等の協力を得ることも有効な方法である。更には、我々学生をターゲットに学校の機関紙に PR の記事の掲載の依頼や、宇都宮以外の地域でのイベント等で PR する。

4-2　民間企業との協力体制

まず、デマンド交通の導入おいて最重要である交通手段を提供する事業者を決める。運行の計画段階で得たアンケート結果などから利用者数などを想定し、交通事業者と人員や経費などについて事前に綿密な打合せを行う。そのうえで、ルートや便数・停留所、車両を決定する。

この提案に欠かせない存在であるのが、うつのみやシティガイド協会である。宇都宮の観光に深く関わるこの団体には、プラン作成における情報提供やプランニングの協力を得る。各観光地について、デマンド交通が導入されることで生じるメリットを踏まえた観光資源の活用方法の提案を行ってもらうのだ。また、各観光地において実際にガイドを行ったり、すべての観光地に共通、もしくは関連付けたイメージ戦略を作成するなど、宇都宮の活性化の専門機関として活躍してもらう。

一般の民間企業については、受け入れる体制を整備してもらう。具体的には、利用者が喜ぶサービスの提供や、各観光地を愉しむためのより詳細な解説が掲載されたチラシ作りなどである。また、各地域の魅力をブラッシュアップし、利用者の感想などからニーズを掴み、リピーターの獲得に努める。これらの体制作りは、民間企業と行政、うつのみやシティガイド協会の三者が協議し、全体のブランド戦略として構築することを目指す。

市街地の飲食店にはサービス券や割引券の提供を依頼するほか、趣味の団体に対しては店舗の一部スペースをギャラリーとして提供する。宇都宮の魅力を満喫した利用者に対し、愉快のダメ押しをすることができるのは、美味しい食べ物とお酒を提供することができる市街地の飲食店の最大のメリットではないだろうか。

５　郊外型デマンド交通導入の課題

5-1　宇都宮の魅力の体系化

今回の提案にあたり、我々は市役所で多くのチラシや小冊子を入手し、調査した。その過程で気づいたことは、資料内容に重複があることや、同じエリアを扱う資料でも内容に違いが見受けられたことである。気軽に学べる内容として宇都宮全体の魅力を総合的に俯瞰できる資料と、各地区固有の魅力をまとめた資料とに分けて、これらを体系的に構築した資料があると、デマンド交通の利用者には喜ばれる。

5-2　計画と現実との差異の修正

本提案の主旨として、旬にこだわるということが挙げられる。天候等の不確定要素に対しては、代替になるコースやプランを提案し、柔軟に愉しんでもらうこともデマンド交通のメリットである。屋内で愉しむことができる施設が充実している宇都宮市では、こうした時に美術館や資料館を推奨し、宇都宮の魅力を PR することができる。そのほかにも、ろまんちっく村やとびやま歴

史体験館などの魅力ある施設もある。また、さまざまな表情を持つ景観を愉しみながら、デマンド交通で宇都宮をぐるりと一回りするのも愉しい。このフレキシブルさが、デマンド交通の真骨頂といえる。

5-3　デマンド交通導入に向けて

デマンド交通の導入には、既存のバス路線と重なる範囲についてバス事業者との話し合いが必要である。これはデマンド交通のデメリットとして一般的に、相互に利用者を奪い合う形になることが指摘されている。相互のリスクを低減する方法を模索する。また、既存のバス路線との接続に関しても、十分な検討を重ねるべきであろう。

その他、先のモデルコースのルートを実際にデマンド交通が走るとなると、かなりの長距離になってしまうことがわかる。郊外の観光地を網羅して走ることがメリットであるデマンド交通であるが、長距離を走行し、時間が掛かってしまうことも事実であろう。これに対して、時計回りと反時計回りのデマンド交通を時間差で運行するか、路線を複数設定して中継点などを作り、乗り継ぎができるようにすれば、解決可能である。

６　デマンド交通の未来予想図

冒頭に記したとおり、デマンド交通の基礎にあるのは、人々の要望“デマンド”である。このデマンドこそが宇都宮市民の愉快となり、人々の交流や、人々の感動の元となる。宇都宮市内のそれぞれが地域の特色を活かし、相互に連携することで新たな魅力に繋がり、郊外、さらには中心市街地の活性化に繋がる。

行政として、多くの愉快を生み、郊外における人々の交流が活気づくことで生まれる消費活動も、市政には重要である。また、市民がこうした事業により地元の魅力を再認識し、地元の観光地を愛し、人や地域や産業との多くの交流を育み、活性化に繋がることは、なにものにも代えがたい喜びではないだろうか。

宇都宮市のすみずみまで“愉快”を浸透させるデマンド交通は、始発点から終着点まで宇都宮の旬の魅力を端から端まで眺めてみたいと思わせる、魅力溢れる宇都宮を愉しむ新たなシンボルとなる。

《 参考 》

聞き取り

・　大谷石体験館におけるインタビュー（2011.10.15）
・　関東自動車株式会社 路線バス事業部におけるインタビュー（2011.10.27）
・　宇都宮市観光案内所におけるインタビュー（2011.10.21）

資料

・　宇都宮市経済部観光交流課「平成 22 年宇都宮市観光動態調査報告書」（2010）
・　宇都宮市経済部観光交流課「カジュアルに楽しむ街 宇都宮」（2010.11）
・　宇都宮市総合政策部交通政策課「デマンドバスシステム実証実験の結果について」（2003.5）
・　宇都宮観光コンベンション協会「宇都宮ガイドマップ」
・　宇都宮観光コンベンション協会「花歳時記うつのみや」
・　大谷石産業株式会社「大谷石体験館」
・　株式会社ティーゲート「旅の発見 大谷石の里 宇都宮市大谷」
・　総務省統計局「家計調査家計収支編」（2008）